

# 平市公報

第七號

昭和十三年十月十五日



語

今三日内閣總理大臣ヲ召サレ賜ハリタル軍人  
援護ニ關スル勅語左ノ如シ

朕カ陸海軍人ノ忠誠勇武ナル明治以來屢國難ヲ  
克服セリ 而シテ今次ノ事變師ヲ隣疆ニ出スヤ  
又克ク忠烈ヲ勵ミ以テ國威ヲ中外ニ顯揚シ 朕  
カ忠實ナル臣民統後ニ在リテ相率井公ニ奉シ出  
征ノ將兵ヲシテ後顧ノ憂ナカラシム 朕深ク之  
レヲ嘉尙ス惟フニ戰局ノ擴大スル 或ハ戰ニ死  
シ 或ハ戰ニ傷キ 或ハ疫癘ニ墮ル、モノ亦少  
カラス 是レ 朕カ夙夜惻怛禁スル能ハサル所  
ナリ 宜シク力ヲ軍人援護ノ事ニ効シ遺憾ナカ  
ラシムヘシ 茲ニ内帑ヲ頒チ之レカ貨ニ充テシ  
ム卿其レ 朕カ意ヲ體ジ 之レカ規畫ニ當リ克  
ク其ノ績ヲ舉ケンコトヲ期セヨ

## 福島縣訓令第二十一號

今般内閣總理大臣ニ對シ優渥ナル勅語ヲ下シ給ヒ且ツ軍人援護ノ實トシテ御内帑金下賜ノ恩命ヲ垂レ  
サセ給フ皇恩ノ無疆ニシテ聖慮ノ深遠ナル洵ニ恐懼感激ノ至ニ禁ヘズ  
惟フニ傷痍軍人、軍人遺族家族ノ援護ノ完備ヲ期スルハ平時戰時一貫シテ國運伸張ノ要諦ナリ、今ヤ  
時局愈々擴大シ帝國ノ 聖業前途尙遼遠ナルノ秋將兵ヲシテ一意忠誠ヲ盡スニ些ノ遺憾ナカラシムル  
ヲ期スルハ現下喫緊ノ要務ニ屬ス  
職ヲ軍人援護ノ事ニ奉ズル者宜シク淬勵任ニ當リ運營宜シキヲ制シ遍ク國民ヲシテ協心戮力報效ノ誠  
ヲ輸サシメ舉國一體統後施設ノ完備ヲ圖リ以テ 聖旨ニ副ヒ奉ラムコトヲ期スベシ  
右訓令ス  
昭和十三年十月五日  
福島縣知事 君 島 清 吉

## 公會堂竣工式

平市公會堂建築工事竣工に付十月三日午前十時より別記順序に依り竣工式を舉行來賓には貴族院議員  
安藤子爵閣下を初め縣官、縣會議員、縣下各市長、市會議長、郡内町村長、市内各官衙學校校長、市會  
議員、前議員、各區長、密附者、工事關係者、新聞記者、其他六百餘名參列嚴肅裡に舉行し、終て喜  
多流の謡曲平藝妓組合出演の餘興等あり盛大裡に終了したり。尙當日は各室に市内華道師匠出品の生  
花及盤景陳列更に第一會議室には平安會に於て舊藩信正公遺墨舊藩時代の繪圖を掲げて展覽せしめて  
大に光彩を添へたり、當日市長式辭、工事報告、來賓祝辭次の如し

式次第 一、一同着席(午前十時)

一、祝詞 一、玉串奉奠 一、昇神 一、式辭 一、工事報告

一、功勞者表彰 一、來賓祝辭 一、閉式ノ辭

一、終テ 一、餘興宴祝

### 式 辭

天高く清涼の氣爽快を覺えるの候茲に本市公會堂本館新築工事成るを告げ竣功式を擧ぐるに方りまして閣下並に多數來賓諸賢の貴臨を忝ふしたるは本市の光榮とし洵に欣幸とする所であります。惟ふに公會堂は公共團體に於ける設備として重要な使命を有し政治、經濟、産業、教育、社交其の他百般の事項に至るまで斯の種設備を利用せざるなく社會文化の普及發達上必要の施設であると信ずるものであります

我平市は昨年六月市制施行以來未だ日淺く戸數五千七百七十三、人口參萬參千を算し常磐沿線縣下第一の樞要都市として地の利を得加ふるに附近町村に於ける炭礦其の他の事業の隆昌と磐城七濱漁撈水産の振興と相俟て貨客の集散頗り多く軌近商工業は年と共に躍進的發展を示し從て各種産業經濟等の團體設立多きを加へ諸設の大會公私集會の機會益繁きものあるに拘らず適當なる會堂を有せず、己むなく學校の講堂或は劇場等を代用し其の不利不便尠からざるものあるに鑑み公會堂の設備は平町時代より市民の均しく待望したる所でありまして多年の懸案として調査を重ねたる結果、昭和十一年二月新築の議成り敷地を字中町十五番地に卜し總工費八萬圓を以て鐵筋コンクリート造本館及付屬日本館建設の計畫確立し爾來諸般の手續を了し昭和十二年七月工を起したるに時偶々今次の支那事變勃發し鐵材使用の制限を受け設計變更の己むを得ざるに至り加之物價騰貴に伴ひ諸材料及勞銀昂騰の影響深刻なるものありまして豫算超過のため資金不足を告

ぐるの苦境に逢着いたしました。が縣當局に於ても事情を諒とし縣會の協賛を経て多額の補助を支出せられ、又建築委員其他の努力と特志家各位の理解ある援助に依り多額の寄付を得まして本事業の完成を見るに至りましたことに對し厚く感謝の意を表する次第であります。又た工事着手以來茲に一年有餘其の間建築委員諸君は協力一致寄付の募集に工事の監督に献身的努力を拂はれ又工事請負者に在ては克く犠牲的精神を發揮し、従業員亦た誠實事業に當り、監督技術員其の他の従業員も亦た熱誠其の職責を完ふし茲に竣功を告ぐるに至りたる努力に對し滿腔の敬意を表する次第であります

本公會堂の構造は敢て輪奐の美なしと雖堅牢を主とし採光に通風に防音装置に一段の注意を拂ひその收容人員は優に貳千八百以上を算するを得べき見込であります。而して大講堂の外各種の小集會にも利用し得べき各室の設備もありませんから之れが利用は將來市民福祉の増進に資するのみならず社會の進運に寄與する所大なるものあるを信ずると共に此の輝き盛事に對し慶祝措く能ざる次第であります

現下帝國未曾有の國難たる支那事變も漢口の陥落日虜に迫りたりと雖戰局の前途は益途遠でありまして時局愈々重大性を加へ、吾々國民は舉國一致堅忍持久盡忠報國の誠意を以て銃後の護りを固ふするの要極めて切なるの秋各般の集會に之を善用せんことを望むものであります

尙終りに本公會堂建設に關し甚大なる同情と御援助を給りたる各位に對し重ねて深甚なる謝意を表する次第であります

昭和十三年十月三日

平市長 青沼 銈太郎

## 工事報告

本日茲に本市公會堂竣工式を舉行せらるゝに際り工事の概要を報告するの機会を得ましたことは小職の最も光榮とする所であります

公會堂の建設は本市多年の懸案でありましたが、昭和十一年二月同年度事業として工費金八萬圓を以て鐵筋コンクリート造り本館及附屬日本館を建築することに決し敷地を字仲町十五番地市有地一、一三七坪に定め其の財源は金額起債に需めたるに工事費の全額起債は主務省の認むるところとならず幸ふじて金三五、〇〇〇圓は起債の許可を得るに至りたるも殘額金四五、〇〇〇圓は特志家に寄附を仰ぐの止むなきに至りたる次第であります爾來是等の手續完了に相當の日子を費したると一面多年待望したる市制施行準備事務等の爲本事業は昭和十二年度に繰越の止むなきに至り同年七月漸く堀江工業株式會社に基礎工事請負を特命し着工せしめたるに偶々支那事變勃發に遭遇し鐵材使用制限を受け本館は此を木骨鐵網コンクリート造りに設計變更するの余儀なき事情に立至り更に諸物價勞銀昂騰の深刻なる影響を被り爲に設計變更を累ぬること數度に及び遂に其の財源金四萬圓の不足を告ぐるの苦境に逢着したるも幸縣當局の御同情に依り金一萬五千圓の縣費補助を得殘額金二萬五千圓は一般有志家の寄附に仰ぎ合計金拾貳萬圓を以て事業の遂行を爲したる次第であります。即ち本工事は客年七月二十一日地鎮祭を執行し本年三月五日上棟式を舉行、八月二十二日を以て本館工事を完成したるものにして其の間實に一年一ヶ月有餘の歲月と人夫延人員九千餘人とを費したる實況であります。又建築諸材料の選擇検査及び設計工作の適格を期する爲特に監督詰所を設置し囑託技師佐々木大作常務監督の任に當り、更に主任技師神長倉春造及び建築委員七名隨時出場して其の監督を嚴にし、更に本年六月十四日以降七月末日に至る迄建築委員

は連日交互出場して工事の監督々勵に努め以て工事に遺憾なきを期したる次第であります

而して本公會堂の總建坪五七九坪六合一勾、本館建坪四五二坪九合三勾、内一階二九一坪八合五勾、二階一〇七坪八合八勾、三階二八坪一合三勾、地階七坪〇七勾、物置一八坪に別れ、様式は「ゴシック近代式」に據り、玄關は「アールヌーボー式」を採用し其の構造概要は木骨鐵網コンクリート造り軒高地盤より三十四尺、左塔家は實に六十三尺に達し外部は柱形玄關アーチ、正面三連窓グラニット、白色セメント洗出し、屋根は六甲石綿瓦チヨコレイト色とし、内部は南洋ラワン材腰パネル仕上、壁及び天井はテツキス張目地樺仕上となつて居り、又附屬日本館は建坪一二六坪六合八勾其の様式は純日本式平家建を採用し、又構造概要は軒高地盤より十七尺、基礎コンクリート打抗十三尺四寸丸太、重要柱下は十五尺打込造作主要材は無設玄關及び廊下等は小節長押等は無節証物使用し、天井は格縁天井ベニヤ板張り、屋根は万年瓦都型葺でありまして何れも専ら堅牢を主とし通風採光に意を用ひ特に防音装置を施したるは本館の特徴であります。又其の室數は本館は大會堂以下七室に附屬、日本館は五室に別れ其の収容力は優に本館二、五〇〇人、日本館三百人、合計二、八〇〇人を容ることが出来る見込であります。又電燈設備は東京電氣株式會社照明學校の設計に係り、電力使用量一時間百二十キロ、會堂天井の照明は一燈六百ワット十二ヶ所、計七、二〇〇ワットであります

以上は工事の概要でありますが其の規模豪壯にして又収容力の偉大なる眞に躍進大平市に應はしき文化の殿堂なるを信じて疑はざるものであります。工事計劃の議成りて以來實に二年有半幾多の苦境難關を突破し遂に今日の盛事を見たるに至りたるは之れ偏に監督官廳の御懇篤なる指導と來賓各位御援助の賜でありますと共に監督技師員並に建築委員の熱誠周到なる指

導監督と工事請負者及従業員の犠牲的精神を以て奉仕せられたる結果であることを信するものでありまして茲に深甚なる敬意を表し御報告申上げる次第であります

昭和十三年十月三日

平市助役 伊 藤 秀 吉

### 祝 辭

平市公會堂工事を竣り本日をして落成式を舉行せらるる信昭舊藩領の因縁に依り此の盛典に陪す、歡喜極り莫し

惟ふに維新の大業は藩地を奉還し巨城其の礎を失ひ街衢亦寂として一時荒廢に歸したるも明治、大正、昭和三朝の國運の伸暢文化の興隆と共に昔く其の餘澤を享け商業に、工業に、頓に勃興を來し市民不撓の努力之を補け今や市況殷賑更に舊態を停めず、曩に市制を布き縣下東部樞軸の地となる今又公會堂の建設を見る當市文化發祥の基礎愈々堅し寔に慶賀に堪えざるなり

然りと雖も尙新に施設を要すべき幾多の事業の存するものあり此の時局に際し各位益々協心戮力以て當市の隆盛を期せられんことを望む。

聊か蕪言を陳べ祝辭とす

昭和十三年十月三日 貴族院議員正四位勳四等

子 爵 安 藤 信 昭

### 祝 詞

平市公會堂落成祝賀の盛典に列席する光榮に浴したるは眞に欣快とするところなり

公會堂はその設計機構裝飾誠に快適にして平市を表徴するに充分なりとす之が建築の衝に當りたる各位の勞苦に對し深甚の謝意と敬意を表し茲に落成に當り謹て祝詞を呈するものなり

十月三日

富 澤 英 雄

### 祝 辭

口頭文意(略)

縣會議員 小 野 晋 平

### 祝 辭

茲に平市公會堂新築落成の盛典に列し縣下三市長を代表して一言祝辭を呈するの光榮を得たるは頗る欣幸とする處なり

平市が新興都市として着々健實なる發達を遂げ内容を充實し外觀を整備し市勢日に進み月に昂りつゝあるは衷心敬意を表し慶賀措く能はざる處なり今回此の堂々たる大建築落成を告げ市の中央に一偉觀を加へたるは當に市施設の完備に一歩を進められたるのみならず新都市濶濶の意氣を表徴するものとして痛快極る所を知らず市民各位が欣躍抃舞の情深く推察するに餘

りあり  
今會堂構造内外の設備を具に拜見し工事の経過を詳細に承るに及んで此の非常時局下に於て斯る大事業を首尾克く完成せられたるは洵に偶然ならざるを知り當局の苦心と市民各位が愛市觀念の熱烈なるを思ふて只管感激に堪へず、就中有志各位が奮つて私財を建築資金に寄付し以て斯の事業の完成を助けられたる甚大なるを聞き全市に漲る和衷協同滅私奉公の精神に深甚の敬意を表すると共に轉た健羨に堪へざるものなり  
思ふに地方自治の發達は實に此の精神の發揮に存し地方自治體の發達は國家興隆の基本たり、希くは平市民各位將來益々今日の衿持せらるゝ此の美風を發揚し幸國家の爲自重自愛せられんことを  
聊か燕言を呈して本日の盛典を祝し洋々たる平市の前途を祝福して祝辭に代ふ

昭和十三年十月三日

縣下三市長總代

若松市長 佐 瀬 剛

### 祝 詞

平市公會堂新築の工竣り本日落成の式典を舉行せらるゝに際り其の席末に列するを得たるは余の最も欣快に堪えざる所なり  
願ふに市制の施行は曩は三萬町民の要望たりしに之が實現を見着々内容の充實整備の完成を企圖し水道の擴張、鋪道等躍進又躍進本堂建設の如き亦其の一たり  
凡そ都市發展の要素は元より多岐なりと雖も心須案件たる文化的施設に俟

つべきもの頗る多し、然るに本市には公會堂の設備なく市民は勿論地方民の齊しく遺憾とする處たり、茲に於てか之が建設を計劃し市當局者の苦心と愛市に燃ゆる多數特志者が奮つて醸出し本會亦此の工を賛し聊か微志を寄せ巨額の費を投じて起工す、其の功たるや實に近代建築の粹を集め規模宏大にして結構壯麗堅牢にして輪奐の美を極めたる文化の殿堂完く成る寔に慶祝堪えざるなり、此後此の種建築の見るべきもの多々あるべしと雖も實に本市の一偉觀たるを失はず、更に東北に冠たりと聞くに及びては本市の誇り亦大なるものあらん、將來文運の進展に伴ひ利用の途益々多きを加へて文化の向上を招來し延ひては市運の隆昌を促進する所大なるものあるべし  
望むらくは一般市民たるもの當局者の苦心を多とすると共に年來の素望を達成して幾多の恩恵に浴するを想ひ永く之が最大の價値を發揮して市勢の向上と市民の福祉増進とに努められんことを一言述べて祝辭とす

昭和十三年十月三日

福島縣町村長會石城郡支會長

伊 藤 淺 之 助

### 祝 詞

昭和十三年十月三日平市公會堂規繩功成り爰に落成の式を舉ぐ堂は多年宿望の市民の殿堂にして輪奐彫鏤の粹を極めざるも技術の巧緻と意匠の精細と相俟ちて結構の壯麗人をして瞠目せしむるに足る寔に魏々たる大厦は我等が都市に數段の威容を添へ復我等が誇りの一を加へたるを喜ぶものなり  
願みて今本工程の迹を觀るに我が當事者並に委員諸子の拮据勵精此の好

果を齎したるは論なきも特志家各位の寄與の質財が克く此成功に礎石を措き更に縣費の補助を得て爰に設計緒に就き頼に多年の宿願を達したるの功績は誠に多謝するに堪えたり、想ふに市勢の趨く處浸々として止まず本公會堂の建設は躍進平市の狀勢に副へる企劃にして時局益々重大國民物心總動員の緊要市民の和衷協同を要望するの秋爾後識者の講演に藝術の展示に又音樂の公開に市民の享くる福祉は甚大なるものあらん、己に本堂の竣成が社會公益に利することを得 聖代文化の恩澤に浴せしむるを得るは感謝すべし、實にこの光輝ある盛典を舉ぐるを得たる我々市民は美しき協和の實を高唱するものにして最も慶祝すべきものなり、不肖今日席末に班列するの喜びに堪へず、蕪言を陳べて祝詞に代ふ

昭和十三年十月三日

平市會議長 野 崎 滿 藏

前記竣工式終了後十月四日、五日の兩日午前九時より午後八時迄市民一般に公會堂の縦覽を許したるに四日の雨天にも拘らず四千餘人、五日は無慮壹萬千餘人の入場ありたり

### 消防組頭異動

平市消防組頭井上茂作氏九月十五日午前三時二十分死亡欠員の處副組頭關内正一氏十月四日平消防組頭に任命せられたり

### 仙臺鑛山監督局平出張所開始

十月五日勅令第六六六號を以て鑛山監督局官制改正の結果即日監督局支所を平市に設置左記の通り事務取扱を開始せらる、尙廳舎本建築は來春二月上旬完成の豫定なり

名 稱 仙臺鑛山監督局平支所  
假事務所位置 平市白銀町十五番地  
管轄區域 福島縣平市、双葉郡、石城郡  
支 所 員 支所長鑛山監督局技手望月健太郎 外一名

### 九月分文書收受發送件數調

名 稱	收	發	計
庶務	五四八	四二一	九六九
財務	一八六	二二	二〇八
產業	九三	二四五	三三八
兵務	一六八	一、〇四九	一、二一七
戶籍	三一四	二八〇	六五五
社會	二五八	三八二	六四〇
工務	五二	六〇	一一二
學務	一〇三	四四	一四七
計	一、七八一	二、五〇五	四、二八六

### 戶籍及寄留件數 (九月分)

名 稱	本籍	非本籍	計
出生	三七	二〇	五七
死亡	三二	一一	四三
婚姻	一七	四	二一
離婚	二	一	三
其他	一四〇	三六	一七六
計	二四〇	七二	三一二

  

名 稱	計
戶籍謄本	二六五
戶籍謄本	一一七
證明	二八四
計	八五
住所寄留	四八
居所寄留	一三三
計	一〇三
寄留抄本	二〇

### 所得稅調查委員及同補闕員選舉狀決

所得稅調查委員及同補闕員ノ投票及開票は十月十日各市町村毎に執行し十月十二日午後一時より平稅務署に於て之が選舉會を行ひたるに其の結果左の如し

調査委員	補闕員
二〇〇票 小野晋平	一一三票 猪狩庄平
一九八票 柏原幸次郎	一八四票 大嶺庫
一九〇票 渡邊貴一	一五八票 岡田千藏
一六三票 野崎滿藏	一五五票 古川慶福
一六二票 阿部政右衛門	一五一票 吉田恭平
一三六票 青天目信次郎	一〇三票 寺田壽三郎
五七票 近藤吉松	五八票 櫻村富保

### 消防葬執行

故平消防組頭井上茂作氏の消防葬は九月二十一日午後一時より平第三小學校講堂に於て舉行、關内副組頭委員長となり其の他關係委員係員夫々分擔盛大裡に執行せらる、式場には大日本消防協會長代理、縣支部長代理、縣協會長、石城協會長、平市長、神奈川縣協會長、外函館、一宮、氣仙沼消防組頭初め縣内組頭、附近町村長、名譽職員、官衙學校長、火防組長、少年消防隊員等多數參列佛式に依り舉行、關内委員長の祭文、大日本消防協會長、縣支部長、縣消防協會長、平市長、市會議長、石城郡消防協會長、神奈川縣協會長、代議員代表、縣下消防組頭代表其の他の弔詞二十七通、弔電五百餘通、終て委員長の挨拶、遺族の謝詞にて午後三時半悲みの盛儀

は滞りなく終了したり  
尚同氏多年の功常に對し式前市に於ては弔慰金及感謝狀を遺族に贈呈した

### 昭和十三年秋清潔法施行日割

十月十八日 (火曜日)	十月二十一日 (金曜日)
第二九區 上平窪	第一區 長橋町
第三二區 中 鹽	第二區 研町、古鍛冶町
第三三區 幕ノ内	第三區 中平窪
(以上平窪方部全部)	第四區 田 町
	第五區 一町目
	第六區 二町目
	第七區 第三區ノ内
	第八區 南町西部
	第九區 北白銀町
	第十區 立 町
	第十一區 大工町
	第十二區 鐵道官舎
	(以上田町大通警察署に通ずる道路を境界とし西部全部)
	(但し道路の兩側を同日に施行するも妨なし)

十月二十二日 (土曜日)
第七區 三町目
第八區 四町目
第九區 五町目
第一〇區 新川町
第一一區 第三區ノ内
第一二區 南町東部
第一三區 北白銀町
第一四區 仲間町
第一五區 鎌田町
第一六區 立 町
第一七區 第二〇區 堤ノ内
第一八區 月見町
第一九區 大工町
第二〇區 南白銀町
第二一區 第二八區 大町十五町目
第二二區 鐵道官舎
(以上田町大通警察署に通ずる道路を境界とし西部全部)
(但し道路の兩側を同日に施行するも妨なし)

### 慰問袋募集に就て

十月七日平市公會堂に於て市役所吏員、各學校長、青年團長、各婦人團體員會合協議の上三八〇個を募集し十一月一日發送することとせり、尙慰問袋募集に關し内容品其の他に對する左記軍部よりの希望書を夫々配付した

慰問袋の内容品に就て軍部よりの希望

- 一、通信用紙 封筒―封緘ハガキ 葉書  
私製にして「軍事郵便」四字朱書
- 二、雜誌類 繪葉書 郷土風景 美人繪等  
キック、婦人世界、主婦之友其ノ他、豆講談本、落語集、川柳、俳句  
民謡集等
- 三、塵 紙
- 四、娛樂用品 碁、將棋  
盤紙製にても可、智慧の輪、ボール
- 五、曆 大曆なれば最も可  
柱曆なれば小なるもの
- 六、タワシ 洗濯、靴等の手入用として可なり
- 七、寫 眞  
各自のもの、家族のものなれば姓名を記したるもの喜ばれん
- 八、煙 草 キザミ煙草  
罐入としナダ豆煙管を添へなば尤も可ならん
- 九、針、糸等

糸には茶褐のものを入ること

二、小鉢、爪切、毛拔、耳搔、場子  
角製にて併用のもの可ならん

二、下 帶

赤布のものは武人らしく可なり

三、手 拭

寄贈者の氏名、激勵の文句、標語、和歌、川柳等を記入せば喜ばれん

三、輕節、貝柱、ホツキ干、干アワビ、鰯、若芽、昆布、七色唐辛、味ノ

素、ライスカレー素、是はうまい、ミルクコーヒト、砂糖入紅茶、コ

―ヒー等

四、干栗、ムキ胡桃、ゴマ蕨干、菊干等

五、海苔佃煮、昆布佃煮、輕の鹽辛、筋子、氷砂糖、果物等の罐詰類は可  
成小なるものは携帯に便なり

食料品は可成一種類つつ乾燥してバラスイン紙様のものにて包み罐詰類は  
紙等にて包み紐にて堅く結び動かぬ様になし香と味が變らない様になせ  
ば可ならん

(注意)

皆様から贈らるゝ慰問袋が兵隊さんの手に届く迄には早くも三、  
四ヶ月、長ければ半歳以上かかる様でありますから變り易いもの  
や充分乾燥しない様な物を入らるゝとこれが爲め慰問袋全部が役  
に立たぬ様になり折角の御厚意が通らなくなりますから充分御注  
意下さい。

尙前記の品々は先づ適當と思はるゝものを擧げたのでありますか  
ら絶對之に限ると云ふ譯ではありませんから取捨御選擇を御願致  
します。



## 市參事會

昭和十三年十月十七日參事會開會附議事件左の如し

- 一、公會堂建築請負者に對する慰勞金贈與の件
- 一、市會議員、平消防組頭井上茂作に對する弔祭料贈與の件
- 一、昭和十三年度歳出更正豫算の件
- 一、寄附採納の件
- 一、弔詞贈呈の件

## 委員會

- 九月十九日 警備委員會
- 九月二十六日 公會堂委員會
- 九月二十七日 公會堂委員會
- 十月四日 土木委員會

## 廳中記事

- 九月十一日 愛國婦人會平市分會旗樹立式舉行
- 九月十二日 防空演習實施ス
- 九月十六日 防空演習實施ス
- 九月十八日 滿洲事變七週年祈願祭舉行
- 九月十九日 平市聯合分會ニ於テハ模範動員演習ヲ實施ス
- 九月十九日 防空演習講習アリタリ

二十一日 平消防組頭井上茂作氏消防葬執行 (記事参照)

三十日 銃後々援強化週間實施協議會アリ

十月三日 公會堂竣工式 (記事参照)

五日 公會堂附屬日本間上棟式舉行

五日 仙臺鐵山監督局鑛業所平支所開所セリ

五日 國民精神總動員銃後強調週間實施ス

五日 名譽ノ戰死者松本上等兵遺骨午後六時二十二分平驛着ニ付

青沼市長、市會議長、名譽職員、各官衙學校長、軍人分會

消防組、青年團、各種婦人團體員其ノ他多數出迎ヘ弔意ヲ

表シタリ

六日 平市軍事後援會役員會

七日 名譽ノ戰死者矢吹曹長遺骨午後四時四十四分平驛着ニ付青

沼市長、市會議長、其他前記ノ如ク多數出迎ヘ弔意ヲ表シ

タリ

十日 銃後強調週間遺家族慰問ノ爲メ市役所員、區長、方面委員

警察官、各種婦人團體員部署ヲ定メ訪問シタリ、同時ニ本

縣知事ヨリノ慰問金ヲモ贈呈シタリ

十日 平市公會堂ニ於テ所得稅調查委員及補選員ノ選舉ヲ執行シ

タリ當日有權者五八四名中投票人員四五九人ナリ、棄權一

割二分七厘ニ當ル

昭和十三年十月十五日

發行人  
發行所  
平 市 役 所

福島縣平市長橋町三五番地

印刷者  
川 崎 文 治

福島縣平市長橋町三五番地

印刷所  
常磐毎日印刷株式會社

電話六三〇番